

茨城大学 工学部 都市システム工学科
令和4年度前期 学科教育点検報告書
令和4年9月27日, 10月12日
報告者 都市システム工学科 学科長 信岡尚道

1. 実施日時と場所

第1回 令和4年9月27日(火) 8:40~11:00 12:50~14:30 Teams オンライン

第2回 令和4年10月12日(火) 13:20~13:30 TEAMS オンライン

2. 出席者

第1回

常勤教員：山田 小林 横木 原田 桑原 信岡 熊澤 藤田 平田 車谷 辻村 肥田 榎本
増永 一ノ瀬 吉田 稲用（全常勤教員17名のうちの17名が出席）

クロス教員：久野（契約時間内の全クロス教員1名のうち1名が出席）

（*クロス教員のうち、遠藤はもともと教員契約時間外）

非常勤教員：出席なし

技術職員，事務職員：出席なし

第2回

常勤教員：山田 小林 横木 原田 桑原 信岡 熊澤 藤田 久野 車谷 辻村 肥田 榎本
増永 一ノ瀬 吉田 稲用（全常勤教員17名のうちの16名が出席）

欠席：平田（学会活動のため）

クロス教員：契約時間内の全クロス教員0名）

（*クロス教員のうち、遠藤、久野はもともと教員契約時間外）

非常勤教員：出席なし

技術職員，事務職員：出席なし

3. 添付資料

資料1-1 学部教育改善委員会議事録

資料1-2 都市システム工学科/専攻 FD 研修会議事録

資料2 2022年度前期 学科・専攻教育改善委員会およびFD研修会 議事次第

資料3 令和4年度前期 授業点検改善表集

4. 授業点検の実際

4. 1 アンケート実施状況

点検評価に先立って実施した、授業アンケートの回収状況は以下のとおり。

常勤教員担当科目分： 30 科目／常勤教員担当科目総数 30 科目

非常勤教員担当科目分： 5 科目／非常勤教員担当科目総数 5 科目

4. 2 点検した科目

応用地質学、情報リテラシー、化学概論、都市システム工学序論、大学入門ゼミ、線形代数Ⅰ、都市システム工学製図、水理学Ⅰ、地盤力学Ⅰ、構造力学Ⅰ、数理統計、常微分方程式、フーリエ解析、建築設計製図Ⅰ、プログラミング演習Ⅰ、社会基盤工学基礎演習Ⅰ、建築計画学、建設材料学、測量学、建築一般構造、建築法規、建築施工、建築史、建築実務基礎論、振動及び耐震工学、海岸工学、上下水道工学、都市システム工学実験Ⅰ、建築環境工学演習、建築設計製図Ⅲ、社会基盤設計演習Ⅰ、都市システム工学学外実習、橋梁及び鋼構造、地盤工学、交通システム

の 35 科目

前期に開講した専門科目の総数 35 科目中 35 科目（100%）

4. 3 具体的な点検方法

前期に開講した 35 科目中 32 科目について、以下の方法で点検を実施した。各科目の具体的な点検結果は、資料 1-1 の議事録における「点検評価と結果」を参照のこと。なお、化学概論、常微分方程式、フーリエ解析については、令和 4 年 10 月 12 日（水）13:20～13:30 開催の学科会議内に設けた第二回学部教育改善委員会にて別途 1 科目ずつ確認した。

- ・ 3～5 科目程度のグループ(資料 2 参照)ごとに、各授業担当の教員が担当科目の授業点検改善表(資料 3)等の資料に基づいて、特に前年度の点検評価で出された各科目の課題・問題に対する対応実績について説明し、それに対しての参加教員全員からの質疑・コメントを受ける形で、実施した
- ・ 随時、提出済みの電子データや、茨城大学 FD/SD 支援システムを参加者が各自で確認し、それに関しても必要に議論した
- ・ ファイル提出された教員間ネットワークの活動状況についても、確認した

5. 点検評価の結果

5. 1 昨年度の点検評価で出された改善策のフォローアップ

- ・ 点検を行った全ての科目において、昨年度に改善すべき問題点は改善されていたことが確認された。

5. 2 今回の授業方法で優れている点

- ・ 構造力学Ⅱでは、小テストを毎回課して全問正答になるまで繰り返し自己学習をさせて

おり、全問正答できた段階で中間試験や期末テストを受験出来る権利を得るようにした。
これにより成績分布も良くなった。

5. 3 今回の授業方法で改善すべき点

- ・ 一部（特に非常勤講師担当の科目）、中間アンケートが実施できなかった科目があったため、次年度から改善する。

6. 教育改善活動

- ・ 詳細は、資料 1-2 参照
- ・ 構造力学において、manaba のテスト機能を活用して、学生の自己学習を促す試みが紹介された。

授業のねらいと演習問題、小テストの関係について、説明があったあと、具体的な manaba での作成方法について説明があり、質疑、意見交換を行った。

- ・ 授業アンケートの回収率向上について（紙ベースの時は全体的に 7~8 割程度回収できていたが現在は 5~6 割程度になっている）、及び、評価が高い授業を実施するためには何が必要かについて意見交換を行った

回収率向上の取り組みが紹介され、また、教育改善委員会から配布されている「回収率の向上のコツ」を参考にしてほしい旨の説明があった。

推奨授業の評価に際しても、授業の工夫とくに勉学意欲を引き出して予習・復習を実施するような工夫を行なうことが重視されていることが紹介され、学科の授業点検においてもこれらの工夫をより明確に他教員に紹介してもらうことを重視したいとの提案があった。

7. 報告書の開示

この報告書と同じ内容の書類を teams の学科会議チームに設置した学科 FD チャンネル内に備え、学科の全教員が自由に閲覧できるようにした。

8. 『産学協同カリキュラム改良委員会』を受けての教育改善活動について

前回の産学協同カリキュラム改良委員会では、おもに土木・建築の融合に関する教育での扱いについて提案をいただき、学科・専攻としては R6 年度から始まるカリキュラムへの反映を目指しており、各教員間ネットワークの活動が進められており、また、学科全体として取り組んでいる。

9. その他

特になし。